

●提出された意見等

No.1

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>現在の道の駅の部分改善で十分であり、商用車を除き車中泊やキャンピングカーの利用には使用料を徴収、老朽化した宇宙記念館は解体する。道の駅の移転新設は、JR 函館線余市・小樽間の存廢の動向が決まってから考えるべきです。</p>	<p>北海道新幹線延伸に伴う並行在来線のあり方は、現在、沿線自治体による協議が行われているところですが、一方、国により整備が進められている倶知安余市道路の一部供用開始が見込まれるなか、現在の道の駅は、休憩や情報発信などの機能を十分に発揮できていないものと考えています。国では、道の駅を道路利用者に対し快適な休憩と多様で質の高いサービスを提供する施設として位置付け、一般の利用に供することを前提としていることから、道路施設としての駐車場使用に係る対価を利用者全般から徴収することは、制度趣旨になじむものではありませんが、関係機関との協議にうえ、一般利用に支障がない範囲内において、利用方法を工夫する余地はあるものと考えます。</p>

区分 ※D

No.2

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>道の駅からの二次交通としてバス路線を確保してほしい。その際、余市駅からの動線についても検討していただきたい。</p>	<p>中心部と広域交通の結節点となることから、二次交通の確保は課題の一つとして認識しており、運行事業者との調整が必要となりますが、例えば、循環線の一部の「新たな道の駅」への乗入れを行うことが考えられます。</p>

区分 ※D

No.3

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>過去に北海道の道の駅を制覇しました。何度でも行きたいと思う道の駅の特徴は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そこでしか食べられないものがある ・お得に買えるものが多い ・建物は明るく清潔感がある <p>というものです。</p> <p>また、構想案は分かりにくい文章で書かれているように思います。どのような意見が必要なのかについても分かりやすく書いてほしいです。</p>	<p>この度のパブリックコメントでは、構想案全般に関し、ご意見をいただきたいと考えており、その点についてアナウンスが十分でなかったことについては、申し訳ございません。本構想は、官民連携による施設整備を念頭においており、聞き慣れない言葉が出てきますが、紙幅の許す限り平易な表現となるよう努めます。</p> <p>今回いただいたご意見にある「何度でも行きたいと思う道の駅の特徴」は、いずれも集客にとって欠かせないことから、これらの特徴が盛り込まれた施設が持続可能な形で運営されるよう、民間のノウハウを取り入れながら、他地域にも見劣りしない魅力あるものとなるよう事業を進めます。</p>

区分 ※D

No.4

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>木材には、機能性、心理面からの効果、SDGsの取組、脱炭素社会の実現という点において優位性があります。また、木材の利用は、令和6年度に導入される「森林環境譲与税」に対する理解促進にも一役買うものと考えます。多くの方が立ち寄る「道の駅」のリラックスできる場づくりにおいて、地域資源であるカラマツの利用をお願いします。</p>	<p>木材を含む地域資源の活用は、施設整備とその後の運営においても欠かせない視点です。他市町村の官民連携による施設整備（運営）事例などを参考にしながら、民間事業者との対話、要求水準の設定等を通じ、町としてコミットメントしていきます。</p>

区分 ※D

No.5

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>道の駅を余市インターチェンジ付近とありますが、私は反対です。広域的な観光と産業振興の拠点、街はずれにあっては意味がありません。また、町民の交流の場としても、インターチェンジ付近だと遠すぎます。</p>	<p>再編候補地周辺では、俱知安余市道路の整備が進められており、これと接続する後志道・札樽道金山PA以西では、道路施設としてSA/PA等の休憩機能が付加される予定はありません。余市ICは有料・無料区間の結節点にあたり、ICへの乗降が比較的スムーズに行われることが予想されますので、これらの道路利用者を取り込むことで、本町の魅力を効果的にPRできるものと考えます。また、中心市街地とのアクセスについては、運行事業者との調整が必要となりますが、既存の循環路線の「新たな道の駅」への乗入れや、高速（高規格）道路経由の新たな都市間バス路の開設など、高齢者など交通弱者にも配慮したものとなるよう関係機関に働き掛けてまいります。</p>

区分 ※D

No.6

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>北海道の全ての市町村、また東北の多くの道の駅に立ち寄り、人が多く集まるもの、そうでないもの様々なものを見てきました。そのなかで私が望むことを記載いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレは広く、綺麗であること。また、シャワーやパウダールームがあるとよい ・無料開放 Wi-Fi により駐車場全体をカバーすること ・地元業者振興のため、町内の飲食事業者によるメニュープロデュース・提供 ・販売スタッフが、地元ならではの余市タータンなどオリジナルティのあるものを着用するなど、ものづくりの紹介機能を持たせる ・サイクリングに対応した駐輪場や補修機器・材料の完備 ・飲酒運転につながらないように留意したワイン提供 ・多言語に対応した観光案内 ・建物への北海道木材の利用と周辺環境への配慮 	<p>大手住設メーカーの調査によると、観光地のトイレが”きれいなトイレ"だと7割以上が「観光地のイメージがよくなる」とされ、観光地を訪れてもらえる要因のうち第2位、訪れてもらえなくなる要因の1位がトイレとなっているなど重要なものであり、道路管理者と連携した設置・維持管理に努めてまいります。シャワーやパウダールームについては、必ずしも道路施設とは言えませんが、費用対効果を見極め、必要があれば官民連携による設置を検討します。</p> <p>町内の飲食事業者によるメニュープロデュース・提供、地域でつくられる作品の紹介は、いずれも地元事業者の振興につながることから、設置・運営両面での参画がなされるよう、インセンティブの付与など制度面で検討を行います。</p> <p>全国の道の駅では、Wi-Fi 環境の整備が進められているところであり、訪日外国人に対応した観光など「情報提供」は備えるべき機能の一つと考えています。また、健康志向の高まりによりサイクリングを選択する観光客が増えていることから、これらユーザーのニーズを見極める必要があります。</p> <p>候補地近郊では、果樹栽培が盛んであり、また、近年は、ワイナリーを訪れる旅行者が増えていることから、民間提案にあたっては、周辺の自然と調和した施設外観となるよう、民間事業者と連携した取組を行います。</p> <p>木材を含む地域資源の活用は、施設整備とその後の運営においても欠かせない視点ですので、他市町村の官民連携による施設整備(運営)事例などを参考にしながら、民間事業者との対話、要求水準の設定等を通じ、町としてコミットメントしていきます。</p>

区分 ※D

No.7

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>アイヌ文化の資料展示スペースを設けるなら、阿倍野比羅夫の資料展示も行っていただきたいです。</p>	<p>新たな道の駅は、町内の歴史や文化財に触れる際の最初の一步となり得ることから、利用者の興味・関心なども考慮に入れた展示内容となるよう検討を行います。</p>

区分 ※D

No.8

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>第3章 3-3(1) オンラインショップへの誘客とありますが、新しい道の駅ができるまで待つのではなく、今から取り組まないのでしょうか？</p> <p>第4章 4-4(1) ・道の駅独自の商品開発をすると記載されていますが、道の駅のターゲットを明確にしたほうが良いと思います。 ・商品開発には時間がかかりますので、今から取り組んで現在の道の駅で販売することで、商品のブラッシュアップや精査ができ、2025年のオープン時により商品を取りそろえることができるのではないのでしょうか。 ・フードコートの運営方針に、「POSシステムによる売上管理によるマーケティング分析」とありますが、2025年にオープンしてから分析するのでしょうか？</p>	<p>これまで地域の特徴を活かした様々な商品開発が民間主導で行われていますが、町では、これら商品開発等を行う事業者の取組を加速するため、特に独自性、先進性が認められるものに対する支援を行っています。また、事業者による販売方法について、従前のリアル店舗での対面販売ではPOSシステムなどによる顧客データの蓄積が行われ、販売戦略に反映されているものと承知しています。さらに移動制限や接触機会の低減という新たな状況に対応するため、顧客とのタッチポイント（接点）の多様化を図るための取組に着手する事業者が町内に出はじめています。</p> <p>「新たな道の駅」を核とする交流拠点施設は、道路利用者のみならず、住民による通年利用、北後志地域を周遊する観光客、札幌都市圏からの多頻度利用など多様な利用者が見込まれます。これら潜在顧客を効果的に取り込むため、本町と包括連携協定を締結している民間事業者のうち、マーケティングノウハウを有する事業者等と連携し、それに見合った施設規模や品揃えなどソフト・ハード両面での事業環境整備を行い、時々刻々と変化するニーズに対応します。</p>

区分 ※D

No.9

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>余市の道の駅にぴったりなのが大空町の「道の駅メルヘンの丘めまんべつ」です。町内業者との商品開発ならびに製造施設、大きすぎず小さすぎない販売所、イトインのスペース、外観と周囲の雰囲気づくりは、まさに理想形です。往々に落ち着いた建物があり、そこを永続的に町民主体で活用することができ、お客さんが来やすいように駐車場が整備されていて、呼び込むための宣伝を続けられる体制づくりをお願いします。</p>	<p>道内では120を超える道の駅があり、それぞれが特徴を活かしたものとなっています。本町が構想する「新たな道の駅」は、交流拠点として通年による住民利用を前提としつつ、高速（高規格）道路ICに近い地の利から、北後志地域を周遊する観光客に加え、札幌都市圏に居住する生活者の多頻度利用が見込まれます。これら利用を取り込むため、「新たな道の駅」を核とする交流拠点施設を通じ、観光情報のみならず、具体的商品により当地の魅力をPRすることができるよう、民間事業者等と連携した取組を行います。</p>

区分 ※D

No.10

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>5、6年前から全国を旅して道の駅を利用させていただいている中で、集客のできる「道の駅」としてどうあるべきかについて、自分なりの意見を述べさせていただきたいと思えます（必要なものを抜粋）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔なトイレ ・ごみの捨てられる道の駅 ・展望台やドッグラン、イベント会場、キャンプ場 ・温泉施設 ・大きくて使いやすい駐車場 ・地場製品の普及に貢献できること 	<p>大手住設メーカーの調査によると、観光地のトイレが”きれいなトイレ”だと7割以上が「観光地のイメージがよくなる」とされ、観光地を訪れてもらえる要因のうち第2位、訪れてもらえなくなる要因の1位がトイレとなっているなど重要なものであり、道路管理者と連携した設置・維持管理に努めてまいります。</p> <p>ごみ処理については、施設管理（運営）者に負担が発生することから、費用対効果の点で十分な検討を行う必要があります。</p> <p>各種文献などによると、本町周辺では、一定の地中熱が賦存していることから、必要に応じ国等の補助制度を活用し、イニシャル・ランニング両面において、コスト検討を行いながら、候補地で適用可能な熱利用手法について検討してまいります。</p> <p>駐車場容量については、道の駅のあり方を検討する際に重要な要素となっていることから、ピーク時の利用を想定する一方で、降雪期の維持管理コストについても考慮する必要があります。今後、国によるゼロカーボン関連の施策を活用するなど、電気自動車充電など再生エネルギー利用のモビリティに対応した施設となるよう検討を行ってまいります。</p> <p>地場製品については、民間によるマーケティングノウハウを取り入れながら、他地域に見劣りしない魅力ある道の駅となるよう事業を進めてまいります。</p> <p>ドッグランやキャンプ場等の施設については、民間事業者によるマーケティング結果を見極める必要があります。</p>

区分 ※D

No.11

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>新たな箱のプランニングもよいですが、やれることをやらずに新たな箱に期待を込めてもナンセンスです。顧客の満足に官に期待できません。</p>	<p>指定管理による管理が行われる町有施設について、行き届かない点があれば、改善がなされるよう、引き続き取り組んでまいります。また、「新たな道の駅」の具体的な運営方法は、今後検討してまいります。KPIを工夫するなどモニタリング機能の充実などを行い、官民連携により利用者満足向上を図ってまいります。</p>

区分 ※D

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方
<p>全国をキャンピングカーで旅をして 15 年になります。道の駅は、"その町の顔、看板"であり、首長、議会、関係諸機関の意思がその駅に如実に表れ出ます。提案としては、専門的担当者の配置、職員研修の実施や「余市町の応援団」の組織化が考えられます。</p> <p>また、道の駅利用者はどのような人を念頭においているかなど（抜粋）お聞かせ願います。</p>	<p>国は、道の駅を創意工夫により道路利用者に快適な休憩と多様で質の高いサービスを提供する施設として位置付け、本町では、これまで産官学による検討や議会の場において、道の駅のあり方について議論を重ねてまいりました。本構想では、快適な休憩機能を提供すべく道路管理者と連携しつつ、民間の創意工夫により質の高いサービスの提供を行うものとしております。町としてはこれまで、従前の人事交流のほか、庁内各課による情報共有を行う一方、民間事業者との包括連携協定締結により、地域の課題解決のための最新の知見を取り入れるとともに、「ふるさと納税」では、すでに、企業からの寄附申出を受けており、本町への応援の輪は、着実に広がっています。</p> <p>新たな道の駅は、住民の交流拠点であるほか、高速（高規格）道路 IC に近いという地の利を生かし、北後志地域を周遊する観光客、札幌都市圏の生活者の多頻度利用が見込まれることから、これら利用を取り込むための仕組づくりについて、マーケティング分野に強みがある民間事業者と連携しながら進めてまいります。</p>

区分	※D
----	----

※「ご意見等に対する余市町の考え方」の A～E の区分は次のとおりです。

区分	意見等の反映状況
A	ご意見等を受けて計画等の案を修正したもの
B	計画等の案とご意見等の趣旨が同様であるもの
C	計画等の案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	計画等の運用にあたって参考となる情報提供
E	計画等の案に対するご質問等

※「官民協働による『新たな道の駅』を核とする交流拠点施設基本構想」につきましては、策定次第、余市町ホームページにおいて公表します。

●この記事に関するお問い合わせ先

経済部 商工観光課

〒046-8546 北海道余市郡余市町朝日町 26 番地

電話：0135-21-2125（直通） FAX：0135-21-2144